職業実践専門課程等の基本情報について

+++ ** FD + DD		I又ī	直認可平月	認可年月日 校長名 = 100,000								
東放学園専門	学校 昭和54年4			年4月1日 堀内 和人 (住所) 東京都杉並区和泉2-4-1					2-4-1			
=== + 5				(電話) 03-3323-8531								
設置者名		設工	立認可年月日 代表者名 〒 168-0063						所在地			
学校法人東放	学園	昭和	和54年4月1	日	斉菔	藤 晃	(住所)	東京都杉並区和泉2	2-4-1			
分野		認定課程名	, 1		認定学科	夕		03-3323-8531]士認定年度	高度専門士認	定在度	職業宝珠軍	厚門課程認定年度
工業		業専門課			放送技術			30(2018)年度		<u> </u>		1(2019)年度
工术	_	- * 4 1 11 1 1	i±		从应汉的	14	1 194	.00(2010)平及			ויין וויין	1(2013)平及
学科の目的								ロ識やスキルを習得す メディアとエンターティ				
学科の特徴(主な 教育内容、取得可 能な資格 等)	映像音響係中退率:29	処理技術者 %	資格認定、「	青報処理技	技能検定、日	本語ワープロ	1検定					
修業年限	昼夜	全課程の値	修了に必要 単位		持数又は総	講	義	演習	実習	9		実技
	P.88	※単位時間、	単位いずれ	1,700	単位時間	300	単位時間	300 単位時間	1,395 単位時間		単位時間	単位時間
2 年	昼間	かに記入		-	単位		・単位	- 単位	- 単位	-	- 単位	- 単位
生徒総定員	牛徒爭	€員(A)	留学生	数(生徒実員の	n内数)(B)	留学生割	合(B/A)	中退率			•	
			ш, т.			ш, ш,	Д (В) / ()	12-				
204 人	179			23	人	0	1 %	2 %				
	■卒業者 ■対職希	致(C) 望者数(D)) :		71 64		숫					
	■就職者		, . :		57		^					
	■地元就	職者数(F)			56		人					
	■就職率	(E/D) に占める地	元 が晩老⊄)割合 (口/口	89 =)		%					
	■ 小儿和联1日	のの地	. フロッル和以1日 0.	raid (F/E	98		%					
	■卒業者	に占める就師	職者の割合	(E/C)								
	■進学者	数			80		<u>%</u> 人					
就職等の状況	■その他											
	¬ =>	. 寸 初 绐 1 夕	マルバノ	108 Z	の出10 夕							
	フリーラン	⁄ス契約1名	、アルハイ	下3名、で	の他10名							
	(令和	6	年度卒業者	に関する令	和6年5月	1日時点の情	報)					
	■主な就	職先、業界	等									
	(令和6年度											
								ツクス、WOWOWエン				東京サウンド・プ
		シ、(杯)―ユ 評価機関等			rigitai Studio	0、(杯)果尿刀	フラインセン	ター、(株)権四郎、(株) 無	メーベルハーク、帰	T10E7	-71 TU	
第三者による		1、例えば以7						7115				
学校評価			(TERL) 評価結果を掲載									
								評	価結果を掲載した			
)		評価団体:				受審年月:			を価結果を掲載した ニームページURL			
 当該学科の						受審年月:						
当該学科の ホームページ		評価団体: ww.tohogak	kuen.ac.jp/	toho/tech	nnique/	受審年月:						
 当該学科の	https://w	ww.tohogal		toho/tech	nnique/	受審年月:						
当該学科の ホームページ	https://w	ww.tohogal 立時間によ	る算定)	toho/tech	nnique/	受審年月:						
当該学科の ホームページ	https://w	ww.tohogal	る算定)								5 単位時間	
当該学科の ホームページ	https://w	ww.tohogal 立時間によ	る算定)			受審年月: 習・実技の抗					5 単位時間	
当該学科の ホームページ	https://w	ww.tohogal 立時間によ	る算定) 数 うち企業等	手と連携し		習・実技の指				390		
当該学科の ホームページ	https://w	ww.tohogal 立時間によ	る算定) 数 うち企業等	手と連携し 手と連携し	た実験・実	習・実技の指				390	0 単位時間	
当該学科の ホームページ	https://w	ww.tohogal 立時間によ	る算定) 対 うち企業等 うち企業等	手と連携し 手と連携し 受業時数	た実験・実た演習の授	習・実技の教業時数	受業時数			390 (705	0 単位時間	
当該学科のホームページ	https://w	ww.tohogal 立時間によ	る算定) 対 うち企業等 うち企業等	等と連携し 等と連携し 受業時数 うち企業 ²	た実験・実 た演習の授 等と連携し1	習・実技の教業時数	受業時数	技の授業時数		390 (705 90	0 単位時間 0 単位時間 5 単位時間	
当該学科の ホームページ URL	https://w	ww.tohogal 立時間によ	る算定) 枚 うち企業等 うち企業等	手と連携し 手と連携し 受業時数 うち企業 ^会 うち企業 ^会	た実験・実 た演習の授 等と連携し7 等と連携し7	習・実技の抗業時数	受業時数 ・実習・実 の授業時数	技の授業時数		390 (709 90	0 単位時間 0 単位時間 5 単位時間 0 単位時間	
当該学科のホームページ	https://w	ww.tohogal 立時間によ	る算定) 枚 うち企業等 うち企業等	手と連携し 手と連携し 受業時数 うち企業 ^会 うち企業 ^会	た実験・実 た演習の授 等と連携し7 等と連携し7	習・実技の抗業時数 た必修の実験 た必修の演習	受業時数 ・実習・実 の授業時数	技の授業時数		390 (709 90	0 単位時間 0 単位時間 5 単位時間 0 単位時間 0 単位時間	
当該学科の ホームページ URL 企業等と連携した況 (A、Bいずれか	https://w	ww.tohogal 立時間によ 総授業時参	る算定) 女 うち企業等 うち企業等 うち必修打	手と連携し 手と連携し 受業時数 うち企業 ^会 うち企業 ^会	た実験・実 た演習の授 等と連携し7 等と連携し7	習・実技の抗業時数 た必修の実験 た必修の演習	受業時数 ・実習・実 の授業時数	技の授業時数		390 (709 90	0 単位時間 0 単位時間 5 単位時間 0 単位時間 0 単位時間	
当該学科の ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況	https://w	ww.tohogal 立時間によ	る算定) 女 うち企業等 うち必修打 (うち企業	手と連携し 手と連携し 受業時数 うち企業 ^会 うち企業 ^会	た実験・実 た演習の授 等と連携し7 等と連携し7	習・実技の抗業時数 た必修の実験 た必修の演習	受業時数 ・実習・実 の授業時数	技の授業時数		390 (705 90 (0 単位時間 0 単位時間 5 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間	
当該学科の ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれ況	https://w	ww.tohogal 立時間によ 総授業時委 立数による 総単位数	る算定) 女 うち企業等 うち企業等 (うち企業 (うち企業 (うち企業	春と連携し 春と連携し 受業時数 うち企業等 うち企業等 と連携	た実験・実 た演習の授 等と連携し 時と連携し したインタ	習・実技の抗業時数 た必修の実験 た必修の演習	受業時数 ミ・実習・実 の授業時数) の授業時数)	技の授業時数		390 (708 90 (0 単位時間 0 単位時間 5 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間	
当該学科の ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれ況	https://w	ww.tohogal 立時間によ 総授業時委 立数による 総単位数	る算定) 女 うち企業等 うち必修技 (うち企業 算定)	を連携し を連携し 受業時数 うち企業等 うち企業等 と連携	た実験・実た演習の授 等と連携し いまれている。	習・実技の抗業時数 た必修の実験 た必修の演習 ーンシップの	受業時数 ミ・実習・実 の授業時数) の授業時数)	技の授業時数		390 (705 90 (0 単位時間 - 単位 - 単位	
当該学科の ホームページ URL 企業等と連携した況 (A、Bいずれか	https://w	ww.tohogal 立時間によ 総授業時委 立数による 総単位数	る算定) 枚 うち企業等 うち必修持 (うち企業 算定) うち企業等 うち企業等	を連携し を連携し 受業時数 うち企業等 うち企業等と連携	た実験・実 た演習の授 等と連携し 時と連携し したインタ	習・実技の抗業時数 た必修の実験 た必修の演習 ーンシップの	受業時数 ミ・実習・実 の授業時数) の授業時数)	技の授業時数		390 (703 90 (0 単位時間 1 単位 - 単位 - 単位 - 単位	
当該学科の ホームページ URL 企業等と連携した況 (A、Bいずれか	https://w	ww.tohogal 立時間によ 総授業時委 立数による 総単位数	る算定) 女 うち企業等 うち必修技 (うち企業 算定)	Fと連携し 及業時数 うち企業等 さ等と連携 と連携し して を選携し して を選携し して を選携 して は等と連携 して して はずる にで にで はずる にで にで はずる にで はずる にで はずる にで はずる にで はずる にで はずる にで はずる にで はずる にで はずる にで はずる にで はずる にで にで はずる にで にで にで にで にで にで にで はで にで にで にで にで にで にで にで に に に に に に に に に に に に に	た実験・実た演習の授 等と連携し いたインタ た実験・実 た実験・実 た演習の単	習・実技の抗業時数 た必修の実験 た必修の演習 ーンシップの 習・実技の最	受業時数 ・実習・実習・実 の授業時数) が授業時数)	技の授業時数		390 (708 90 ((0 単位時間 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位	
当該学科の ホームページ URL 企業等と連携した況 (A、Bいずれか	https://w	ww.tohogal 立時間によ 総授業時委 立数による 総単位数	る算定) 枚 うち企業等 うち必修持 (うち企業 算定) うち企業等 うち企業等	をと連携し を連携し を実験数 うち企業等 を等と連携し を等と連携し を変勢と連携し を変勢と連携し を変勢と連携し を変勢と連携し を変勢と連携し を変勢と連携し を変勢と連携し を変数する。	た実験・実た演習の授 等と連携しい したインタ た実験・実 た演習の単 た実験・実	習・実技の抗業時数 た必修の実験 た必修の演習 ーンシップの ででである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 できませる。 できませる。 できませる。 できませる。 できませる。 できませる。 できませる。 できませる。 できままである。 できままである。 できままである。 できままである。 できままである。 できまなななななななななななななななななななななななななななななななななななな	受業時数 ・実習・実習・実 の授業時数) が授業時数) 単位数	技の授業時数		39() (70!) 9() ((0 単位時間 0 単位時間 5 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位	
当該学科の ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれ況	https://w	ww.tohogal 立時間によ 総授業時委 立数による 総単位数	る算定) 女 うち企業等等 うち企業等等 (うち企業 算定) うち企業等等 うち企業等等 方を企業等等 方を企業等等 方を企業等等 方を企業等等 方を企業等等 方を企業等等 方を企業等等 方を企業等等 方を企業等等 方を企業等 方をと 方をと 方をと 方をと 方をと 方をと 方をと 方をと	Fと連携し 及業時数 うち企業等 を等と連携し して数 ではな数 ではな数 ではな数 ではな数 ではな数 ではな数 ではな数 ではな数 ではな数 ではな数 ではな数 ではな数 ではな数 できる企業等	た実験・実 た演習の授 等と連携し1 時と連携しし したインタ た実験・実 た演習の単 等と連携し1 等と連携し1 等と連携し1 等と連携し1	習・実技の抗業時数 た必修の実験 た必修の実験 ーンシップの で で で で を を を を を を を の 変 で で を を の 変 を で を の を を た の を た と を り た と を り を を た を を た を と を と を と を と を と を と を と	受業時数 ・実習・実 の授業時数) 単位数 ・実習・実 のの単位数	技の授業時数		39() (70! 9() (()	0 単位時間 0 単位時間 5 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位	
当該学科の ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれ況	https://w	ww.tohogal 立時間によ 総授業時委 立数による 総単位数	る算定) 女 うち企業等等 うち企業等等 (うち企業 算定) うち企業等等 うち企業等等 方を企業等等 方を企業等等 方を企業等等 方を企業等等 方を企業等等 方を企業等等 方を企業等等 方を企業等等 方を企業等等 方を企業等 方をと 方をと 方をと 方をと 方をと 方をと 方をと 方をと	Fと連携し 及業時数 うち企業等 を等と連携し して数 ではな数 ではな数 ではな数 ではな数 ではな数 ではな数 ではな数 ではな数 ではな数 ではな数 ではな数 ではな数 ではな数 できる企業等	た実験・実 た演習の授 等と連携し1 時と連携しし したインタ た実験・実 た演習の単 等と連携し1 等と連携し1 等と連携し1 等と連携し1	習・実技の抗業時数 た必修の実験 た必修の演習 ーンシップの ででである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 できませる。 できませる。 できませる。 できませる。 できませる。 できませる。 できませる。 できませる。 できままである。 できままである。 できままである。 できままである。 できままである。 できまなななななななななななななななななななななななななななななななななななな	受業時数 ・実習・実 の授業時数) 単位数 ・実習・実 のの単位数	技の授業時数		39() (70! 9() (()	0 単位時間 0 単位時間 5 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位	
当該学科の ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれ況	https://w	ww.tohogal 立時間によ 総授業時委 立数による 総単位数	る算定) 女 うち企業等等 うち企業等等 (うち企業 算定) うち企業等等 うち企業等等 方を企業等等 方を企業等等 方を企業等等 方を企業等等 方を企業等等 方を企業等等 方を企業等等 方を企業等等 方を企業等等 方を企業等 方をと 方をと 方をと 方をと 方をと 方をと 方をと 方をと	Fと連携し 及業時数 うち企業等 を等と連携し して数 ではな数 ではな数 ではな数 ではな数 ではな数 ではな数 ではな数 ではな数 ではな数 ではな数 ではな数 ではな数 ではな数 できる企業等	た実験・実 た演習の授 等と連携し1 時と連携しし したインタ た実験・実 た演習の単 等と連携し1 等と連携し1 等と連携し1 等と連携し1	習・実技の抗業時数 た必修の実験 た必修の実験 ーンシップの で で で で を を を を を を を の 変 で で を を の 変 を で を の を を た の を た と を り た と を り を を た を を た を と を と を と を と を と を と を と	受業時数 ・実習・実 の授業時数) 単位数 ・実習・実 のの単位数	技の授業時数		39() (70! 9() (()	0 単位時間 0 単位時間 5 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位	
当該学科の ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれ況	https://w	ww.tohogal 立時間によ 総授業時憂 立数による。 総単位数	る算定) 女 うち企業等等 うち企業等等 (うち企業 第 定) うち企業等等等 うち企業等等等 うち企業等等等 うち企業等等等等等。	₹と連携し 受業時数 うち企業等 うち企業 き等と連携 した企業 を を を を を を を を を き を を き き を き き を き き を き き を き を き を き を き を き を を き を を き を を き を を き を を き を を き を を き を を き を を き を を き を を き を を き を き を き を き を き を き を き を き を き を き と を き と を き と き と	た実験・実た演習の授 等と連携しい 等と連携しい したインタ た実験・実 た演習の単 等と連携しい に大い に実験・実	習・実技の批業時数 た必修の実験 た必修の実験 一ンシップの ない。 ないのでは、	受業時数 ・実習・実 の授業時数) 単位数 ・実習・実 の単位数 の単位数)	技の授業時数		39() (70! 9() (()	0 単位時間 0 単位時間 5 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位	
当該学科の ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれ況	https://w	ww.tohogal 立時間によ 総授業時数 立数による 総単位数	る算定) 女 うち企業等等が うち企業等等が (うち企業等等が うち企業等等が なっちな必修 (うち企業等等が ないません。)	をと連携し を を を を を を を を を を を を を	た実験・実 た演習の授 等と連携した したインタ た実験・実 を を 連携した したインタ た実験・ 実 したインタ	習・実技の担業時数 た必修の実験 た必修の演習 ーンシップの ででである。 では、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	受業時数 ・実習・実 の授業時数) 単位数 ・実習・数 の単位数)	技の授業時数	- A~−ÿUR L	39(70) 9((0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位	
当該学科の ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれ況	https://w	ww.tohogal 立時間によ 総授業時委 立数単位数	る算定)	をと連携して と連携も をと連携数 業 ううき等とを連携 し を企連携 後 を企連携 後 を企連携 後 を企連携 後 を企連携 後 を企連携 後 を企連携 を企連携 を を企連携 を を必ずる と で まる と で で で まる と で で まる と で で まる と で で まる と で まる と で で な こ で な こ で で まる と で で で まる と で で まる と で で な こ で で な こ で で で な こ で で な こ で で で で	た実験・実 た演習の授 等と連携しい もたエインタ たた実験で単 をと連携しい たた演習で を連携しい たた演習で したインタ たた演習で したインタ たた演習の したよインタ	習・実技の批業時数 た必修の実験 た必修の実験 一ンシップの ない。 ないのでは、	受業時数 ・実習・実 の授業時数) 単位数 ・実習・実 の単位数)	技の授業時数	- A~−ÿUR L	39(70) 9((0 単位時間 0 単位時間 5 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位	
当該学科の ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれ況	https://w	ww.tohogal 立時間によ 総授業時委 立数単位数	る算定) な	をと連携して と連携も をと連携数 業 ううき等とを連携 し を企連携 後 を企連携 後 を企連携 後 を企連携 後 を企連携 後 を企連携 後 を企連携 を企連携 を を企連携 を を必ずる と で まる と で で で まる と で で まる と で で まる と で で まる と で まる と で で な こ で な こ で で まる と で で で まる と で で まる と で で な こ で で な こ で で で な こ で で な こ で で で で	た実験・実 た演習の授 等と連携しい もたエインタ たた実験で単 をと連携しい たた演習で を連携しい たた演習で したインタ たた演習で したインタ たた演習の したよインタ	習・実技の抗業時数 た必修の実験 た必修の実験 一ンシップの なた必修の実験 である。 では数 た必修の実験 た必修の実験 に必修の演 である。 た必修のでは、 に当該ないできる。 に当該ないです。	受業時数 ・実習・実 の授業時数) 単位数 ・実習・実 の単位数)	技の授業時数	- A~−ÿUR L	39(70) 9((0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位	
当該学科の ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれ況	https://w	立数による 立数による 総単位数 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	る算定) な うち企業等等 等 等 等 等 等 等 等 等 等 等 等 等 等 等 等 等 等 等	をと連携しし 受うう等を連携を できると連携を できると連携を をできると連携を を必要等を をできると連携を を必要等を を必要等を を必要等を を必要等を を必要等を を必要等を を必要等を を必要等を を必要等を を必要等を を必要等を を必要等を を必要等を を必要等を を必要等を を必要等を を必要等を を必要等を を必要を を必要	た実験・実 た演習の授 等と連携しい もたエインタ たた実験で単 をと連携しい たた演習で を連携しい たた演習で したインタ たた演習で したインタ たた演習の したよインタ	習・実技の抗業時数 た必修の実験 た必修の実験 一ンシップの なた必修の実験 である。 では数 た必修の実験 た必修の実験 に必修の演 である。 た必修のでは、 に当該ないできる。 に当該ないです。	受業時数 ・実習・実 の授業時数) が授業時数) 単位数 ・実習・実 の単位数 の単位数)	技の授業時数 技の単位数 校設置基準第41条第1項	デームページUR L	39((70) 9((0 単位時間 0 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位	
当該学科の ホームページ URL 企業等をと連携した況 (A、B)のいずれか に記入)	https://w (A:単化 (B:単化	ww.tohogak 立時間によ 総授業時奏 がはよる 総単位数 「での程の年と ででの程の年と (② 学士の	る算定) な うち企業等等が (うち企業 算定) うち企業等等が (うち企業 すっちな必修り (うち企業等等) (うち企業等等) (うちな企業を対している。 (うちなどの事故所となる。 は なのな年となる。 なのなり なのなり ないない。 ないないない。 ないないないない。 ないないないないないないないな	をと連携した を受ううう等と連携した。 を受うううとを連携した。 をと連携した。 をは変数である。 をは変数である。 をは変数である。 をは変数である。 はある。 はある。 はいまする。 はいまる。 はな。 はる。 はる。 はる。 はる。 はる。 はる。 はる。 はる	た実験・実 た演習の授 等と連携しい もたエインタ たた実験で単 をと連携しい たた演習で を連携しい たた演習で したインタ たた演習で したインタ たた演習の したよインタ	習・実技の抗業時数 た必修の実験 た必修の実験 一ンシップの なた必修の実験 である。 では数 た必修の実験 た必修の実験 に必修の演 である。 た必修のでは、 に当該ないできる。 に当該ないです。	受業時数 ・実習・実習・実 の授業時数 の授業時数 の授業時数 の授業時数 の授業時数 の授業時数 の対域は対象 ・実習・実 (専修学 ・事修学	技の授業時数 技の単位数 校設置基準第41条第1項 校設置基準第41条第1項	(デームページUR L) () () () () () () () () ()	39((70) 9((0 単位時間 0 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位	
当該学科の ホームページ URL 企業等の実がずれか に記入)	https://w (A:単化 (B:単化	ww.tohogal 立時間によ 総授業時奏 が担位数 の年年の程の年 でで開して、 ② 常等等	る算定)	をと連携しした。 を受けるとを連携を受けるとを連携をします。 をときませるとを連携をします。 をときませるとのでは、またい	た実験・実際・実際の授・と連携したとは、第一を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	習・実技の抗業時数 た必修の実験 た必修の実験 一ンシップの なた必修の実験 である。 では数 た必修の実験 た必修の実験 に必修の演 である。 た必修のでは、 に当該ないできる。 に当該ないです。	受業時数 ・実習・実習・実習の授業時数) が授業時数) 単位数 ・実習・実習の単位数 の単位数 の単位数 の単位数 (専修学 (専修学	技の授業時数 技の単位数 校設置基準第41条第1項 校設置基準第41条第1項	デームページURL (第1号) (第2号) (第3号)	39((70t) 9((0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 5 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位 - 単位	
当該学科の ホームページ URL 企業等をと連携した況 (A、B)のいずれか に記入)	https://w (A:単化 (B:単化	ww.tohogal 立時間によ 総授業時奏 が担位数 の年年の程の年 でで開して、 ② 常等等	る算定) な うち企業等等が (うち企業 算定) うち企業等等が (うち企業 すっちな必修り (うち企業等等) (うち企業等等) (うちな企業を対している。 (うちなどの事故所となる。 は なのな年となる。 なのなり なのなり ないない。 ないないない。 ないないないない。 ないないないないないないないな	をと連携しした。 を受けるとを連携を受けるとを連携をします。 をときませるとを連携をします。 をときませるとのでは、またい	た実験・実際・実際の授・と連携したとは、第一を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	習・実技の抗業時数 た必修の実験 た必修の実験 一ンシップの なた必修の実験 である。 では数 た必修の実験 た必修の実験 に必修の演 である。 た必修のでは、 に当該ないできる。 に当該ないです。	受業時数 ・実習・実習・実習の授業時数) が授業時数) 単位数 ・実習・実習の単位数 の単位数 の単位数 の単位数 (専修学 (専修学	技の授業時数 技の単位数 校設置基準第41条第1項 校設置基準第41条第1項	デームページURL (第1号) (第2号) (第3号)	39((70t) 9((0 単位時間 0 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位	
当該学科のホームページ URL 企業等等の実施ずれ に記入)	https://w (A:単化 (B:単化	ww.tohogal 立時間によ 総授業時奏 が担位数 の年年の程の年 でで開して、 ② 常等等	る算定) な	をと連携しした。 を受けるとを連携を受けるとを連携をします。 をときませるとを連携をします。 をときませるとのでは、またい	た実験・実際・実際の授・と連携したとは、第一を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	習・実技の抗業時数 た必修の実験 た必修の実験 一ンシップの なた必修の実験 である。 では数 た必修の実験 た必修の実験 に必修の演 である。 た必修のでは、 に当該ないできる。 に当該ないです。	受業時数 ・実習・実習・実習の授業時数) 単位数 ・実習の数 の単位数) (専修学 (専修学	技の授業時数 技の単位数 校設置基準第41条第1項 校設置基準第41条第1項	デームページURL (第1号) (1) (1) (1) (1) (2) (3) (3) (4) (4) (4) (5) (6) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7	39((70t) 9((0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 5 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位 - 単位	
当該学科のホームページ URL 企業等等の実施ずれ に記入)	https://w (A:単化 (B:単化	ww.tohogal 立時間によ 総授業時委 が出する でで開てて、学・等・ででである。 ででは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、こ	る算定) な	をと連携しした。 を受けるとを連携を受けるとを連携をします。 をときませるとを連携をします。 をときませるとのでは、またい	た実験・実際・実際の授・と連携したとは、第一を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	習・実技の抗業時数 た必修の実験 た必修の実験 一ンシップの なた必修の実験 である。 では数 た必修の実験 た必修の実験 に必修の演 である。 た必修のでは、 に当該ないできる。 に当該ないです。	受業時数 ・実習・実習・実習の授業時数) 単位数 ・実習の数 の単位数) (専修学 (専修学	技の授業時数 技の単位数 校設置基準第41条第19 校設置基準第41条第19 校設置基準第41条第19	デームページURL (第1号) (1) (1) (1) (1) (2) (3) (3) (4) (4) (4) (5) (6) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7	39((70t) 99((10t) 	世位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 一単位 入 入 入 入 入	
当該学科のホームページ URL 企業等等の実施ずれ に記入)	https://w (A:単化 (B:単化	 www.tohogal 立時間による 総授業時憂 な数による での程の年 でで開て、 でで開て、 等当例と 等する をを担めの年 でで門して でで門して でで門して でで門して でで門して でで門して でで門して でで門して でで門して ででの でで門して でできる できる 	る算定) な	をと連携しした。 を受けるとを連携を受けるとを連携をします。 をときませるとを連携をします。 をときませるとのでは、またい	た実験・実際・実際の授・と連携したとは、第一を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	習・実技の抗業時数 た必修の実験 た必修の実験 一ンシップの なた必修の実験 である。 では数 た必修の実験 た必修の実験 に必修の演 である。 た必修のでは、 に当該ないできる。 に当該ないです。	受業時数 ・実習・実習・実習の授業時数) 単位数 ・実習の数 の単位数) (専修学 (専修学	技の授業時数 技の単位数 校設置基準第41条第19 校設置基準第41条第19 校設置基準第41条第19	デームページURL (第1号) (1) (1) (1) (1) (2) (3) (3) (4) (4) (4) (5) (6) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7	39((70t) 99((10t) 	0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位 1 単位 1 単位 1 単位 2 単位 6 人 3 人 0 人 0 人	
当該学科のホームページ URL 企業等等の実施ずれ に記入)	https://w (A:単化 (B:単化	立時間による記載を 立数による記載を を提業時数 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	る算定) な うち企業等等 持	をと連携しします。 をと連携を発ううき等とと連連数からないです。 をとはませんでする。 をはませんでする。 をはませんでする。 をはませんでする。 をはませんでする。 をはませんでする。 をはまれている。 をはまれている。 をはまれている。 をはまれている。 をはまれている。 をはまれている。 では、まれて、まれている。 では、まれている。 では、まれている	た実験・実際・実際・実際を連携しいた実験では、大演習の授いた。 大演習 がまま した・ 大変 いまま とき はま はいま まま はいま はいま はいま はいま はいま はいま はいま は	習・実技の技業時数 た必修の実験習・大変をののでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、ときないでは、ときないでは、ときないでは、ときないでは、ときないでは、できないでは、これでは、これでは、これでは、これでは、できないでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	受業時数 ・実習・実 の授業時数) 単位数 ・実単位数 ・実単位数) (専修学 (専修学 (専修学	技の授業時数 技の単位数 校設置基準第41条第1可 校設置基準第41条第1可 校設置基準第41条第1可 校設置基準第41条第1可	(39((70t) 99((10t) 	0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位 1 単位 1 単位 1 単位 2 単位 6 人 3 人 0 人 0 人	
当該学科のホームページ URL 企業等をの実施ずんた況(A、記入)	https://w (A:単化 (B:単化	ww.tohogal 立時間によ 総授業時委 がよる 総単位数 「で門して学 等 等当例と ・ で 等 ・ で の 他 計 ・ ここででは、 で で で で で で で で で で で で で で で で で で	る算定) な	をと連連時のでは、 をと連連時のでは、 をとをできます。 をとをできます。 をとをできます。 をとをできます。 をとをできます。 をとをできます。 をとをできます。 をとをできます。 をは、まずいでは、まがいでは、まがいでは、まずいでは、まずいでは、まずいでは、まずいでは、まずいでは、まずいでは、まずいでは、まがいでは、まずいでは、まがいでは、まずいでは、まずいでは、まずいでは、まずいでは、まがいでは、まがいでは、まずいでは、まがいでは、まずいでは、まがいでは、まがいでは、まずいでは、まがいでは、まがいでは、まがいでは、まがいではでは、まがではではでは、まずいでは、まがではでは、ま	た実験・実験・実際・実際・実際・実際・実際・実際・をとなれて、 大きをとたた 実験 習り 様 大り ター・ 大き でき とた 大き でき した 後 でき しん た 後 でき しん でき しん た 後 でき しん た しん でき しん こう しん は いっぱい しん はん いっぱい しん はん いっぱい しん はん いっぱい しん はん いっぱい しん いん いっぱい しん いん	習・実技の担業時数 た必修のの実験習ののではないである。 おからないがあります。 では、とをできます。 では、とをできます。 ないできます。 ないできまする ないできます。 ないできまする ないできます。 ないできまする ないできます。 ないできまする ないできます。 ないできまする ないできままする ないできままする ないできままする ないできまする ないできまない ないできまないできまないできまないできまないできまないできまないできまないできま	受業時数 ・実習・実 の授業時数) 単位数 ・実単位数 ・実単位数) (専修学 (専修学 (専修学	技の授業時数 技の単位数 校設置基準第41条第19 校設置基準第41条第19 校設置基準第41条第19	(39((70) (0) (0) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (2)	0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位 1 単位 1 単位 1 単位 2 単位 6 人 3 人 0 人 0 人	
当該学科のホームページ URL 企業等をの実施ずんした況へん。 に記入)	https://w (A:単化 (B:単化	ww.tohogal 立時間によ 総授業時委 がよる 総単位数 「で門して学 等 等当例と ・ で 等 ・ で の 他 計 ・ ここででは、 で で で で で で で で で で で で で で で で で で	る算定) な	をと連連時のでは、 をと連連時のでは、 をと連連数のでは、 をとをできます。 をとをできます。 をとをできます。 をは、まずいでは、まがいでは、まがいでは、まがいでは、まずいでは、まがりでは、まがりではでは、まがりではでは、まがりでは、まがりでは、まがりでは、まがりでは、まがりでは、まがりでは、まがりでは、まがりでは、まがりではで	た実験・実際・実際・実際を連携しいた実験では、大演習の授いた。 大演習 がまま した・ 大変 いまま とき はま はいま まま はいま はいま はいま はいま はいま はいま はいま は	習・実技の担業時数 た必修のの実験習ののではないである。 おからないがあります。 では、とをできます。 では、とをできます。 ないできます。 ないできまする ないできます。 ないできまする ないできます。 ないできまする ないできます。 ないできまする ないできます。 ないできまする ないできままする ないできままする ないできままする ないできまする ないできまない ないできまないできまないできまないできまないできまないできまないできまないできま	受業時数 ・実習・実 の授業時数) 単位数 ・実単位数 ・実単位数) (専修学 (専修学 (専修学	技の授業時数 技の単位数 校設置基準第41条第1可 校設置基準第41条第1可 校設置基準第41条第1可 校設置基準第41条第1可	(39((70) (0) (0) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (2)	0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位	

- 1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係
- (1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

高度な実践力や威力の発揮に欠かせない人間性や自立心を育み、環境や技術等の変化が著しい当該業界において順応力を持った人材を輩出するために、

- ①学生が享受すべき知識や技術について、連携企業との日常的なコミュニケーション・意見交換を通じて、教育課程の編成や教育環境の構築に関して、積極的に反映させる事。
- ②就職先ともなり得る連携企業に所属する社員を講師として招聘し、実習・演習授業において実利性・専門性が高いカリキュラムを構成する事。

以上を、企業等との組織的な連携の基本方針としている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

学校長を委員長とし、以下、副校長、教務教育部長の他、就職指導や就職先企業の交渉等を主な業務とする学務管理部 業務主任や学科運営を主たる業務とする学科主任を学内の委員とし、学科が委嘱する業界企業の方と業界関連団体に所 属し、実践の環境を熟知し、あるいはそれらを俯瞰し統括する立場の方を学外の委員として構成している。

学外委員からは当該業界の動向や変化等について、学内委員からは学事や学生の動向等について意見交換を行い、積極的な情報共有を図る。

また、カリキュラムのあり方や授業の構成について、同業界において求める人材像や育むべき人間性や実践力について 等、これらの具体的要件に関しても意見交換や議論を行い、教育課程決定の基とする場として位置付けている。

当委員会の内容は、学内委員により学科毎に実施されているカリキュラム会議で発議がなされ、学科担当職員との意見交換を経て、重要度の高い項目等から教育課程の編成に取り入れられる。反映された項目は、次回以降の同委員会でフィードバックがなされ、今後の会議運営に役立てる事とする。以上を教育課程の編成に関する意思決定の過程としている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年7月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
藤延 直道	協同組合 日本映像事業協会	令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年)	1
森 俊文	一般社団法人 日本ポストプロダクション協顧問	令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年)	1
大滝 功	有限会社フラッグス	令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年)	3
小杉 文人	株式会社 ビデオスタッフ	令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年)	3
村山 雄亮	株式会社WING-T	令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年)	3
市川 一弘	株式会社共立取締役 管理本部長口	令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年)	3
齋藤 明彦	株式会社アート・クリエイティブ・パートナーズ	令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年)	3
堀内 和人	東放学園専門学校 校長 教育課程編成委員会委員長	令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年)	_
笹原 恭	東放学園専門学校 教務教育部長	令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年)	_
木戸 司	東放学園専門学校 学務管理部長	令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年)	_
松本 侑樹	東放学園専門学校 教務教育部 放送技術科 学科主任	令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年)	_

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①~③のいずれに該当するか記載すること。

- (当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「一」を記載してください。)
 - ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、 地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
 - ②学会や学術機関等の有識者
 - ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (9月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年9月24日 14:00~16:00 第2回 令和7年3月28日 14:00~16:00

- (5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
- ※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
- ・企業への入社前に業界人になるためのマインドセットを学ぶ授業があっても良いとの提言に対して、2年間の総括をする内容の科目を新規開講した。
- ・時代に則した良いカリキュラムで授業数もまとまっており、委員会の意見が即時に授業に取り入れられていることへの評価をいただいた。引き続き大学との差別化を意識した実技科目拡充を図る。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

- ①業界の多様化に併せる事を目的とした映像技術全方位的な教育、技術革新と多様化が進む現場に対応する教育等を 重点項目としている本学科において、これらの目的を達成するため、テレビ・インターネットやドラマ・バラエティ、撮影や編 集等と分野を限定せず、広範囲に渡り業務を担当している企業、学生の就業先となり得る連携すべき企業を選択する事。 ②「現場が必要とする人材」を最も効果的に育む事ができる、現場の一線で活躍している企業や外部講師から助言をいた だき、それを積極的に反映させていく事。
- ③実習・演習授業において、授業回毎の具体的な内容や、学生の習熟度を鑑みながらの教育の程度・水準等について、 学内の学科担当職員と議論や意見交換を図る等、同企業との連携を図りながら授業を担当していただく事。 以上3項目を、企業等との連携に関する基本方針としている。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

本学科1年次では、撮影や編集、映像信号・画質管理等の放送・映像技術に関わる各分野において、将来の高度な実践力を身につけるための実習・演習授業を実施している。各分野の職種や業務に従事している企業と連携し授業を担当いただき、学生の理解度に応じたトレーニングを施しながら、指導内容の習熟度や関連知識の理解度等を勘案しながら学修成果の評価を実施していただいている。

2年次では、隣接する他職種の知識や技術を理解しながら、さらに実践力を高めるために、番組・作品制作系の総合的な実習・演習を実施。各分野の一戦で活躍している企業と連携し授業を担当いただき、学修成果の評価を実施していただいている。

また、連携企業や外部講師を招聘し、学科担当職員全員・就職担当職員との懇談の場である講師会を実施。連携企業や講師との意見交換と情報共有を図り、各担当授業のシラバスや具体的な実習・演習内容を検討したり確認したりしながら、教育課程の充実と教育内容・学校職員の質向上に努めている。

上記会議体のみならず、連携企業や協力いただいている外部講師とは、定常的に当該現場の動向や変化、学生の資質等の情報を交換しながら、細やかな話し合い・コミュニケーションを通して、上記主旨同様の効果を図るための対策を常に施している。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連携企業等
ENG実習	1.【校内】企業等から の講師が全ての授業 を主担当	被写体サイズ・光と光の色・音声収録等、屋外ロケーションに必要なノウハウを学びながら、実践力を身につけます。	(株)フレックス
Photoshop		PCを用いての画像処理の基礎や、映像編集に関わる演出技法と画像加工を習得します。	(株)東京サウンド・プロダクション
VE実習 II	1.【校内】企業等から の講師が全ての授業 を主担当	テレビスタジオ・副調整室を構成する数百点の機材の目的・仕組みに加え、機材操作を理解しながら、カメラのカラー調整等の手順や関連技術を習得します。	(株)テイクシステムズ
オンライン編集		ノンリニア編集ソフトのオペレー ションや映像フォーマットの取り扱 いなどを学び、テレビ番組として放 送できるクオリティーに仕上げるた めの技術を習得します。	(株)東京サウンド・プロダクション
バーチャルプロダク ション	1.【校内】企業等から の講師が全ての授業 を主担当	バーチャルで創られる映像コンテンツやイベントの制作過程、XR技術の基礎を学び、実際の現場で使用する機材でバーチャルプロダクションを体験します。	(株)LATEGRA

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

本校では、教員研修規程として教員研修の目的、方針、教員の責務、報告などの事項を定めており、教員の業務経歴や能力、担当する授業科目等に応じ、専攻分野の実務に関する知識、技術、技能並びに、学生に対する指導力等、教員の能力及び資質等の修得・向上を図るため、適宜、企業等と連携した研修を行うことを基本方針としている。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: JPPA韓国視察ツアー2024 連携企業等: - 般社団法人 日本ポストプロダクション協会

期間: 令和6年5月21日~5月25日 対象: 放送技術科 教員

内容 韓国内のポストプロダクションとバーチャルプロダクションを5日間かけて視察し、国内外のポスプロ関係

者とディスカッションすることで、将来を見据えた教育手法や人材輩出に役立てる

研修名: VIDEOGRAPHERSTOKYO2024 連携企業等: Vook

期間: 令和6年7月9日 対象: 放送技術科 教員

内容
バーチャルプロダクションなどの実写映像とCGなどのデジタルコンテンツ制作の最新事情を把握し、映像

^谷 制作を実践しているクリエイターとの意見交換を通して、将来を見据えた教育手法や人材輩出に役立てる

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 中堅社員研修 連携企業等:株式会社インソース

期間: 令和6年9月7日 対象: 東放学園 教員

内容
リーダーとして、フォロワーとして、業務の推進者として、管理職を補佐し、部の成果を出す組織の中核を

担う人材に必要なスキルを習得する

研修名: デジタル教育研究会 連携企業等: 東京都専修学校各種学校協会

期間: 令和7年2月17日 対象: 東放学園 教員

内容 昨今急速に発展している生成AIの分野において、生成AIの概要説明、専修学校・各種学校における学校

経営及び広報活動への生成AIの活用等について学ぶ

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: NHKTECH EXPO2025 連携企業等: NHKメディア技術局

期間: 令和7年5月26日~5月28日 対象: 放送技術科 教員

取り組みから、次世代技術や教育機関に有効な環境設備を研究する

研修名: Creative Solution Showcase 2025 連携企業等: ソニーマーケティング株式会社

期間: 令和7年7月2日 対象: 放送技術科 教員

放送・業務用機器のユーザーに向けの「生産性の向上」・「顧客体験価値の向上」をテーマにした展示ゾー

内容 ンやセミナーを通じ、時代の要請やビジネス環境の変化に適応していく同社の取り組みと方向性を把握

し、教育内容に反映していく

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: ロジカルシンキング研修 連携企業等: 株式会社インソース

期間: 令和7年7月10日 対象: 東放学園 教員

内容
ロジカルシンキングのフレームを学ぶだけでなく、思考法を実際にビジネスの現場で使えるようになるため

* にグループワークや実践を通して学ぶ

研修名: 分かりやすい説明の仕方研修 連携企業等:株式会社インソース

期間: 令和7年9月5日 対象: 東放学園 教員

^谷 「分かりやすい話」の違いを理解し、説明力を高める

- 4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。 また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係
- (1)学校関係者評価の基本方針
- (法人の基本方針)
- ①教育の一層の充実を図り、学校の目的および社会的使命を達成するため、各校における教育活動等の状況について 定期的に関係者評価を行い、随時改善を図ることを目的とする。
- ②学園は充実した学校評価制度の構築に努め、各校・各部門はこれを実施する体制を整える。
- ③各校・各部門は、情報公開を念頭に揚げ、より高い基準を設定し関係者評価を実施する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

グスロビジスが
学校が設定する評価項目
使命、行動指針、教育方針、理念、目的、育成人材像
運営方針、事業計画、運営組織、人事・給与制度、意思決定システム、情報システム
目標の設定、教育方法・評価等、成績評価・単位認定等、資格・免許取得の指導体制、教員・教員組織
就職率、資格・免許の取得率、卒業生の社会的評価
就職等進路、中途退学への対応、学生相談、学生生活、卒業生・社会人
施設・設備、学外実習・インターンシップ等、防火・安全管理
学生募集活動、入学選考、学納金
財務基盤、予算・収支計画、監査、財務情報の公開
関係法令・設置基準の遵守、個人情報保護、学校評価、情報公開
社会貢献・地域貢献の取組み、ボランティア活動の取組み
00000

- ※(10)及び(11)については任意記載。
- (3)学校関係者評価結果の活用状況

評価結果を活用し教育活動および学校運営の質の保証と向上に継続的に努めるための改善措置を随時行っている。委 員の意見やアドバイスを尊重し「即対応できること」「時間をかけて取り組むこと」などを検討・判断し可能な限り出来得るこ とから改善を行っている。(カリキュラムの改革、機材の購入、教員のスキルアップなど)

【具体的な取り組み】クラウド型学園ポータルサイトの活用などICT化を促進。PDCAを繰り返しながら業務の効率化、学園サービスの充実を図り、新たな教育方法・学校運営を施行。社会のニーズや時代に合わせた新たなカリキュラムの検討等。日進月歩で変容していく関連業界の技術や働き方に合わせた授業内容や授業名を委員の意見の元、検討を重ね、実施に向けて準備をしている。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
岸田 真	#Y == ## == ## == 7#_ 7#_ 7\rangle ## ## ## ##	令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年)	教育・学校運営 に関する有識者
田口 裕基	日本大学 鶴ヶ丘高校 教諭	令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年)	高校教諭
小川 尚人	一般社団法人 日本ポストプロダクション協会		就職先及び関 連業界関係者
葭田 浩和	株式会社 ゼロステーション	令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年)	就職先及び関 連業界関係者
永瀬 ななえ		令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年)	保護者

))

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。 (例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・)広報誌等の刊行物・その他(

URL: https://www.tohogakuen.ac.ip/about/valuation/

公表時期: 令和7年5月

- 5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況 に関する情報を提供していること。」関係
- (1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

認可された教育機関として、社会への説明責任を果たすとともに、教育の質保証・向上の観点から、学生、保護者、地域住民、関連業界企業等に教育活動や学校運営の状況に関する情報を提供する。また、同窓会組織や東放学園キャリアサポートセンターと連携を図り、卒業生や企業等から積極的に意見を聴取して、業界のニーズを反映した教育環境の整備や教育課程の編成に努める。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

(=) (1111 121 00 0 1	24 7 6 7 1 1 7 1 2 1 4 2 A A A A A A A A A A A A A A A A A A
ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	基本理念、使命、行動指針、教育方針、学園概要、沿革、お問い合わせ
(2)各学科等の教育	募集学科・募集定員、放送技術科、放送技術科カリキュラム一覧、資格取得
(3)教職員	学園概要(校長名、教員数)、※学校公式ブログ
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職支援
(5)様々な教育活動・教育環境	部&クラブ活動紹介、機材・設備
(6)学生の生活支援	留学生活支援、学生寮
(7)学生納付金・修学支援	学費、奨学制度・教育ローン、奨学制度(留学生)
(8)学校の財務	情報公開(財務情報)
	留学生の方へ
	00000
(9)学校評価 (10)国際連携の状況 (11)その他	

))

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・)広報誌等の刊行物・ その他(

URL:https://www.tohogakuen.ac.jp/

URL: URL:https:// 公表時期: 令和7年5月

授業科目等の概要

	授業科目等の概要 (工業専門課程 放送技術科)															
		分類	等 1	」味性 水达汉	N9 4キ /	雪	授		授	業ス	方法	場	所	教	員	企
						当		単		_	実験					業
	必	選択	自由	授業科目名	授業科目概要	年次	業	位	講	演	•	校	校	専	兼	等と
		必	選	12 未14 口 口	1又未行口1从女	٠	時	122			技実 習					တ
	修	修	択			学期	数	数	義	習	実	内	外	任	任	連携
1	0			映像基礎	最新技術に関わるデジタル信号や伝送理論、信号 圧縮技術や信号測定機器の取り扱いを学習し、 日々変化を遂げる業界への順応力を育みます。	1 前	30		0			0		0		
2		0		映像配信基礎	映像配信の業態や配信ネットワーク・通信技術、 インターネットマーケティングを含めた基礎知識 を習得します。	1 前後	15		0			0			0	
3	0			業界特別講座	放送業界で活躍している様々な分野のプロフェッショナルを招聘して行う、特別講義です。	1後	30		0			0		0	0	
4	0			就職講座I	就職活動の進め方、履歴書作成と面接突破に欠か せない「自己理解」を、自分の言葉で語れる力を 身につけます。	1 前	30		0			0		0		
5	0			就職講座Ⅱ	「就職講座 I 」を基に、履歴書の具体的な記入方法を習得。面接シミュレーションによって実践的な力を身につけます。	1 後	30		0			0		0		
6	0			特 殊 無 線 養 成講座	「第一級陸上特殊無線技士」の資格取得に必要な 基礎知識を習得するため、資格試験における計算 問題を解ける力を身につけます。	1 前	30		0			0			0	
7		0		AfterEffect s I	PCを用いて映像合成処理の基礎から、映像編集に 関わる演出技法を習得します。	1後	30				0	0			0	
8	0			ENG基礎	屋外でのロケーション等で使用される撮影システムに関して、必要となる機材と操作方法を基礎からトレーニングします。	1 後	45				0	0		0		
9		0		イベントゼ ミI	本学が提供する実践の場を通して、他のスタッフ の役割やチームワークを体系的にトレーニングし ます。	1前後	45				0	0	0	0		
10		0		映像クリエ イティブ	グループに分かれ、実習形式でマルチカメラのス イッチングシステムの構築からオペレーションの 基礎を理解し、番組収録を通じ技術スタッフとし て大切なスキルを身に付けます。	1後	60				0	0		0		
11		0		映像表現ゼミI	様々な映像作品から使用機材や技術的アプローチ を検証し、実際にシステム構築や機材のオペレー ションを再現します。	1 後	45				0	0		0		
12		0		音 声 基 礎 実 習	音声ケーブルや信号の伝送、マイクロフォンの特性や各種機器間の接続方法等、関連知識や技術の 全般を学びます。	1 前	45				0	0		0		
13		0		カメラワー ク実習	「カメラワーク基礎」で体得した技術や知識を用 いて、番組ジャンルに即した環境でのカメラワー ウルトレーニングを繰り返し、実践力をさらに高 めます。	1後	45				0	0		0		
14		0		校外学習I	映像機材の展示や企画展に参加し、最新鋭の映像 技術に関する見識を広げます。	1 前後	30				0		0	0		
15		0		スキルアッ プゼミ I	学内イベントのスタッフを通して、番組制作における技術関連のスキルアップを図り、他セクションの仕事内容の理解を深めます。	1 前後	30				0	0		0		
16	0			ス タ ジ オ ワーク実習	テレビスタジオでの番組収録のワークフローから、大型スタジオカメラやクレーンカメラを用いたカメラワークについて、そのノウハウを体得します。	1 前	45				0	0			0	
17		0		DaVinciReso Ive	DaVinciResIveの基礎と機能を理解し、制作の過程 においてDaViciResoIve (主にカラーとエディット)の一般的な機能を習得します。 テレビ中継に必要な電波伝搬の手順や、業界標準	1後	30				0	0			0	
18	0			テレビ中継実習	プレビーを終しる文を組みに取りず時で、未が標準 の中継放送システムや最新の中継方法の機材と操 作を理解し、中継シミュレーションを実施しま す。 パーチャルで創られる映像コンテンツやライブイ	1 後 1	60				0	0			0	0
19		0		バーチャル プロダク ション	ベントの制作過程やXR技術の基礎を学び、実際の 現場で使用する機材でパーチャルプロダクション を体験します。	前後	15				0	0			0	0
20	0			ビジネスマナー	社会人として不可欠なビジネスマナーやコミュニケーションの重要性を認識し、好感度の高いスキルを体得します。	1 前	30				0	0			0	0
21	0			ビデオ制作	カメラマン・映像編集に関わる番組制作の「ワー クフロー」の基礎知識とテクニックを、チーム ワークを通して体型的にトレーニングします。	1 前	60				0	0	0	0		
22		0		PC スキルアップ	社会人として必須のスキルとなった書類作成ソフトとDTPソフトの基本操作を習得します。	1前	30				0	0			0	
23		0		Photoshop	PCを用いての画像処理の基礎や、映像編集に関わる演出技法と画像加工を習得します。 番組制作に関わる、多数の機材間の伝送信号の目	1後	30				0	0			0	0
24	0			VE実習 I	番組制作に関わる、多数の機材間の伝送信号の目 的や特徴を理解し、実際の結議作業を繰り返し経 験しながら、各機材の操作方法をトレーニングし ます。	1後	45				0	0			0	
25	0			Premiere Pro	業界標準の動画編集アプリケーション 「PremierePro」の操作方法を学び、動画編集のノ ウハウを習得します。	1 前	30				0	0		0		
26		0		Macトレーニ ング	フォトショップの基本操作を学びながらポストプ ロダクション業務に必要なテロップ作成のテク ニックを学んでいきます。	1 前	30				0	0			0	0
27		0		ライティン グテクニッ ク	カメラマンと共に番組制作を担う照明スタッフの 業務理解や、被写体への基礎的なライティング方 法や色温度等の関連知識を習得します。	1 前	15				0	0			0	0

28		0		ロケーショ ン番組制作	技術系の学科でありながら、それに拘らない、他 のセクションや役割との関連性、理解が必要な手 法等を、チームワークと作品制作を通して体得し ます。	1後	90		0		0		0		
29		0		業界復習講 座	映像業界で働く直前、、映像業界で働くスタート ダッシュをするための準備段階として、放送技術 科で培ったあらゆる技術を復習します。	2 後	15	0			0		0		
30		0		芸術鑑賞	ジャンルを問わない優れた映像作品の数々を、プロに近いの目線で鑑賞。クリエイターの感性やセンスを磨きます。	2 後	60	0			0		0		
31	0			就職講座Ⅲ	間近に控えた就職活動に向けて、優れたエント リーシート・優れた面接対応等、「内定を勝ち取 る」術を体得します。	2 前	30	0			0		0		
32		0		フ ォ ロ ー アップゼミ	採用活動を行っている企業を招聘し話を伺い、求 める人材像を通して魅力ある自己表現の方法を学 びます	2後	30	0			0		0		
33		0		After Effects II	「After Effects I」の応用編として、映像編集に 関わる演出技法と応用操作を習得します。	2 前	45			0	0			0	
34		0		ENG実習	被写体サイズ・光と光の色・音声収録等、屋外ロケーションに必要なノウハウを学びながら、実践 カを身につけます。	2 前	45			0	0			0	0
35		0		イベントゼ ミII	学外のイベント会場での映像制作実習と通して、 目的論・方法論の理解、準備から撤収までのワー クフローに関連する技術力を高めます。	2 前後	45			0	0	0	0		
36		0		映像テクニック	映像演出や映像構成の技法と、実際のテクニック の関連付けを行いながら、カメラマンとしての実 践力を磨きます。	2 前	45			0	0		0		
37		0		映像表現ゼ ミⅡ	映像作品の表現方法を学びながら技術的視野を広 げ、撮影・配信実習を通して必要な技術スキルを 体得します。	2 後	90			0	0		0		
38		0		音楽ライブ 実習	学外のホールを実習環境として音楽ライブを製作。必要な機材準備から本番・撤収までのすべて を実践します。	2 前	45			0	0	0	0		
39		0		オンライン 編集	編集専用の機材を使用し、現場と同じワークフローを体得。エディターとしての表現力や実践力を身につけます。	2 前	45			0	0			0	0
40		0		カ ラ ー グ レーディン グ	映像内で伝えているシナリオやストーリーに沿っ て色調を調整することで、より与えたい印象を補 強できるようグレーディングテクニックの基礎と 応用を実習を通じてマスターします。	2 前	15			0	0		0		0
41		0		校外学習Ⅱ	映像機材の展示や企画展に参加し、最新鋭の映像 技術に関する見識を広げます。	2 前後	30			0		0	0		
42		0		スキルアッ プゼミII	学内イベントのスタッフを通して、番組制作における技術関連のスキルアップを図り、他セクションの仕事内容の理解を深めます。	2 前後	30			0	0		0		
43		0		ロ ドラマテク ニック	ドラマにおける撮影、映像技術、特機、編集、DIT の基礎を学び、撮影現場での作業とその重要性を 理解してもらいます。	2 前	60			0	0		0	0	0
44	0			番組制作演習	各学科連携して、情報教養・パラエティ・音楽 ジャンルの番組制作シミュレーションを通して、 番組制作を終への理解・チームワークと関連技術 の向上を目指します。	2 前	210		0		0	0	0		
45		0		VE実習 II	テレビスタジオ・副調整室を構成する数百点の機材の目的・仕組みに加え、機材操作を理解しながら、カメラのカラー調整等の手順や関連技術を習得します。	2 前	45			0	0			0	0
46		0		ロケーショ ン実習	実際の観光地に出向き、その環境の魅力・地の特 徴等を映像表現し、視聴者に伝えるための知識や 機影方法等技術を体得します。	2 後	60			0	0	0	0		
			合	ā†	46	杉	目			1995	単	位(単位	対時間	1)

卒業要件及び履修方法	授業期間等				
卒業要件: ①期日までの学費納入 ②必修科目を含む、年間800時間以上、卒業時1700時間以上の修了認定	1 学年の学期区分	2 期			
履修方法: 初回の授業(ガイダンス)で内容を確認し、期日までに履修科目の登録を行う	1 学期の授業期間	15 週			

[|] 関修方法: 初回の授業 (ガイダンス) で内容を確認し、期日までに腹條料目の登録を行っ | 1 子削の「授業・財制 | 1√(留意事項) | 1 子削の「授業・財制 | 1√(日本事項) | 1 子削の「使業料目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。 | 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。